

第152号

せとのおさ



令和元年度「家庭の日」に関する図画 特選作品

「じいじのすいかがとってもおいしかったよ。」三次市立みらさか小学校 2年 たかほし ゆうな 高橋 悠菜



公益社団法人 青少年育成広島県民会議

青少年育成の基本指針

前 文

「青少年は日本の希望である」という言葉は、われわれの心を支えている標語である。ところが、青少年の非行が問題になると、明確な実施効果の見定めもつかぬままに、条例や法律の制定に期待の高まるのが実状である。しかし、青少年の非行が大人の生活の反映であるとすれば、青少年の健全育成は、大人の反省なしには実現しないであろう。大人がかつて青少年であったように、青少年はやがて大人になるのである。人間の生涯は、多様な価値観の個性的選択による自己教育の連続であるといえよう。

ここに制定された青少年育成の基本指針は、ただ青少年育成のあり方を抽象的に示したものに過ぎない。それは、各地域の実状に応じて具体化されることが期待される。総括的にいえば、資源の乏しさを克服して、相当高い生活水準に到達している現代日本において、青少年は将来どのような展望をもって進んだらよいか、これが最大の課題である。

われわれは、青少年の前途に幸福の「青い鳥」の夢を託したい。

青少年育成の基本指針

(個人)

一 個性の独自性に対する自覚にもとづき、その価値可能性を錬磨し、生涯教育の基礎をつくる。

(社会)

一 家庭の愛情にはぐくまれ、社会生活において、友情と連帯の意識を養う。

(自然)

一 国土の自然を愛護するとともに、地域社会の文化を尊重し、環境の教育的整備につとめる。

(世界)

一 諸民族の生活と文化を理解し、平和と親善の心をこめて、国際交流に寄与する。

(総括)

一 日々の生活のなかに、生きがいを求めてわが道を行き、一隅を照らす光となる。



目次

- 2 第31回 定時総会
- 10 令和元年度青少年育成県民運動推進大会
- 14 令和元年度市町民会議ネットワーク研究会
- 17 ひろしまドリームプロジェクト
- 18 令和元年度「家庭の日」に関する作文・図画
 - 作文の部 特選(広島県知事賞)
 - 図画の部 特選(広島県知事賞) 入選(公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞)
- 22 いきいき地域活動紹介
 - 青少年育成安芸高田市民会議 青少年育成坂町民会議
- 24 「少年の主張」・中学生話し方大会2019
(第41回少年の主張広島県大会 第53回中学生話し方広島大会)
- 26 青少年サポーター事業
- 27 あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーン
- 28 青少年育成カレッジ「総合講座」



第31回 定時総会

第31回定時総会を 広島YMCA国際文化ホールで開催

公益社団法人青少年育成広島県民会議は、令和元年6月19日（水）13:30～15:30に「第31回定時総会」を広島YMCA国際文化ホールで開催しました。

来賓ご臨席のもと、表彰式を開催し、報告事項、審議事項、総会決議等が採択されました。

また青少年育成指導者である和田晋さんに「子どもに寄り添うなかで見てきたもの～いま、大人に求められていること～」と題してご講演いただきました。



うえだ
上田会長あいさつ



ゆさき
湯崎広島県知事祝辞

こだま
児玉広島県議会副議長祝辞

総会報告

平成30年度事業報告、令和元年度事業計画及び収支予算についての報告、並びに平成30年度決算書、平成30年度監査報告が行われ、承認されました。



【総会議事】



やすい まき
安井 牧 総会決議文朗読
青少年育成県民運動実践委員

総会決議

次代を担う子供たちが等しく夢と希望を育み、健やかに成長していくことは、私たち全ての願いです。青少年が未来社会の形成者としての自覚を持ち、自立した個人としての役割と責任を果たしていくことは、持続可能な地域社会を形成していく上で必要不可欠でもあります。

青少年育成広島県民会議は、昭和52年に制定した「青少年育成の基本指針」をベースに、行政や関係団体と連携した県民総ぐるみの育成運動を推進し、その時々課題に対応した取り組みを行ってきました。

ところが、いじめや虐待、貧困など、子供たちの権利が軽んじられる状況は一向に解消されていません。社会生活を営む上でさまざまな困難を抱える青少年も多くなってきました。さらに、インターネットやスマートフォンの使用による被害が見逃げせないも現状です。

子供は大人の映し鏡です。青少年を取り巻くこのような状況は、現代社会の反映、縮図にほかならず、大人から模範を示していくことが欠かせません。

人間関係が希薄になっている昨今、私たち県民会議は、人と人とのコミュニケーションの第一歩である「あいさつ・声かけ運動」を基軸に置きながら、今後も新たな課題をテーマとした青少年育成事業を積極的に展開していきます。

「青少年育成の基本指針」の前文は、「青少年の前途に幸福の『青い鳥』の夢を託したい」と結んでいます。子供たちが一層大切にされる社会を創るため、県民運動をさらに発展させ、青少年を温かく見守り、支援していくことを、私たちの総意としてここに決議します。

令和元年6月19日

公益社団法人青少年育成広島県民会議第31回総会

令和元年度青少年育成広島県民会議表彰

優れた行為のあった青少年・団体や地域で自主的な活動を積極的に続けている青少年育成功労者・団体・企業を、毎年、定時総会で表彰しています。

令和元年度の青少年育成広島県民会議表彰を受賞された皆様をご紹介します。



青少年育成功労者 (59人)

いたくら 板倉 妙子 (広島市)	さんしげ 三重 克則 (広島市)	よしだ 吉田 芳和 (広島市)	ささかわ 迫川 節雄 (尾道市)
いとう 伊藤 清子 (広島市)	しげかわ 重川美代子 (広島市)	あらもり 荒森 正彦 (呉市)	たかさき 高崎 泰子 (尾道市)
いとう 伊藤 信子 (広島市)	たかおか 高岡 昇生 (広島市)	えのき 榎 大介 (呉市)	たきがわ 滝川 晃 (尾道市)
かきうち 垣内 孝正 (広島市)	だんばら 段原 克彦 (広島市)	さか 坂 孝好 (呉市)	のがみ 野上 純子 (尾道市)
かたひら 片平 正廣 (広島市)	どうきゆう 道旧 正治 (広島市)	たかはし 高橋 努 (呉市)	まつうら 松浦 尚志 (尾道市)
かねなが 金永 裕人 (広島市)	とがわ 戸川 忠司 (広島市)	たなか 田中 武文 (呉市)	みやち 宮地 國彦 (尾道市)
かりよう 加良 悦造 (広島市)	はせがわ 長谷川至恵 (広島市)	ひらもと 平本由紀子 (呉市)	むかい 向井 祐治 (尾道市)
かわくち 川口 孝俊 (広島市)	ふかだ 深田 尚道 (広島市)	ふじはら 藤原 健志 (呉市)	たいら 平 莞爾 (福山市)
くりひさ 栗久 熊雄 (広島市)	ふじい 藤井 利宏 (広島市)	やまつか 山塚千瑞子 (呉市)	まつくま 松隈 信介 (福山市)
こうの 河野 照子 (広島市)	まつだ 松田 良春 (広島市)	たけの 竹野 信次 (三原市)	たなか 田中 雅子 (大竹市)
こさこ 小迫 敏彦 (広島市)	みやした 宮下 信也 (広島市)	あしよ 芦葭 豊 (尾道市)	つだ 津田百合子 (東広島市)
さいき 佐伯 利明 (広島市)	もとむら 元村 正 (広島市)	えら 江良 宗登 (尾道市)	しみず 清水 早人 (廿日市市)
さいとう 斉藤 和幸 (広島市)	もんでん 門田 孝二 (広島市)	おおひら 大平 隆 (尾道市)	うめだ 梅田 斉 (安芸太田町)
ささき 佐々木洋子 (広島市)	やまだ 山田 仁恵 (広島市)	おだ 小田 秋良 (尾道市)	こうの 河野 吉子 (安芸太田町)
さわだ 澤田さち彥 (広島市)	よこがわ 横川 健壯 (広島市)	かんばら 神原 典政 (尾道市)	

青少年育成功労団体 (8団体)

ひろしまりげいさつしょうねんほうどうきょうじょういんれんらくきょうぎかい 広島東警察署少年補導協助力連絡協議会 (広島市)	うかいえきしゅうへん 鵜飼駅周辺をよくする会 (府中市)
みどりいじゅうゆうかい 緑井柔友会スポーツ少年団 (広島市)	しょうばらちくせいしょうねんけんぜんいくせいきょうぎかい 庄原地区青少年健全育成協議会 (庄原市)
やま 八木バレーボールスポーツ少年団 (広島市)	こやうらせいねんだん 小屋浦青年団 (坂町)
みやうらとうふちやうないかい 宮浦東部町内会 (三原市)	さかがしょうかい 坂雅正会 (坂町)

青少年育成功労団体 (3団体)

くれしりつかわりちゅうがっこうせいとかい 呉市立川尻中学校生徒会 (呉市)	おおづちやまでんがくだん 大土山田楽団 (安芸高田市)
さいぎきちゅうがっこうきょうどけいのうほん 幸崎中学校郷土芸能班 (三原市)	

講演会

【演題】子どもに寄り添うなかで見えてきたもの ～いま、大人に求められていること～

【講師】青少年育成指導者 和田 晋^{わだ すすむ}さん



〈プロフィール〉

昭和31年島根県出雲市生まれ。昭和57年広島大学大学院学校教育研究科修了。昭和57年から広島市内の公立中学校で国語科教諭、生徒指導主事、学年主任として勤務。昭和63年から現在まで、約30年間、広島市内の繁華街を中心に夜回りをし、教職員やボランティアとともに少年への声かけや支援を行う。平成15年から広島市教育委員会青少年育成部主幹。暴走族対策・少年自立支援担当として、少年の立ち直り支援や地域の居場所づくり活動支援に取り組む。平成29年広島市立二葉中学校長を退任後、広島市教育委員会教育センター主事。比治山大学非常勤講師。平成29年3月広島市教育長賞受賞。平成30年12月ペスタロッチャー教育賞受賞。

講演内容(抜粋)

ペスタロッチャーに学んだ教育の基本

私は昨年度から青少年育成指導者に加えていただきました。県民会議の『青少年育成の基本指針』前文を改めて読ませていただきましたが、素晴らしいですね。この前文の一番後ろには「青少年の前途に幸福の『青い鳥』の夢を託したい」、それから基本指針の一番下には「一隅を照らす光となる」と書いてあります。少年たちが未来においてそういう姿になってほしいですね。そして、青少年に関わってもらう皆さま方にも、その青い鳥になってもらったり光の存在になってもらうことも私の願いです。

今日は、2つのテーマで話したいと思います。一つは、子どもと学校、そして日ごろから学校を支えている地域と連携した学校改革の可能性について報告をさせていただきます。そして、もう一つは広島市の夜の世界で出会った子どもたちや親たち、あるいは他の大人との関わりの中から私が学んだ「人と関わり続ける人の存在、その大切さ」について報告をいたします。私が関わった中学校では、家庭訪問をしても家にいない、学校にも来てくれない、そんな子どもたちを必要に迫られて探し回るという夜回りをせざるを得ない状況でした。いろいろな暴力的な団体との関わりがあったり、とうかさんやえびす講があるたびに学校は大いに揺らぎました。その経験を通じて得たことをお話しします。

私は広島生まれではありません。島根県出雲市生まれです。私自身もいろいろな揺らぎがございまして、その中で、ある1冊の本との出会いが私の人生を変えたと言っても過言ではありません。もう亡くなっておられますが被爆者でもいらっしゃいました広島大学の前身である広島文理科大学の総長までなされた長田新先生の『原爆の子～広島の子のうた』という本がそれです。

長田先生は、自らが被爆なさっているのに、少年たちから被爆の体験記を集め、その本を世に送り出して世界に問うという生き方をなさった方です。私は学者は理論研究をするものだと思っていましたが、理論だけではなく、自分の生き方に昇華されているという、この長田先生の生き方に感動しました。

そして、私は広島大学を志願して入学しました。もちろん長田先生は亡くなっていますのでいらっしゃいませんでしたが、長田先生の薫陶を受けた先生方がたくさんいらっしゃって、その話を聞かせてもらうだけでも私には大変いい勉強になりました。

その中で分かったのは、スイスでたくさんいる孤児を集めて全世界の学校の原点をつくったペスタロッチャー

(Johann Heinrich Pestalozzi)の教育論を日本語に翻訳しなくてはならないと、長田先生はドイツ語の『ペスタロッチー全集』という膨大な著作を翻訳して日本に紹介されました。そうした取組は先生の寿命を縮めたのかもしれないと弟子の学者たちがおっしゃっていましたが、私もそう思います。たまらなく尊敬している長田先生が命懸けでペスタロッチーを日本に紹介しようとされた。これは勉強しなければならないと思い、私は4年間そのペスタロッチーに向き合い、卒業論文もペスタロッチーは日本にどのように伝えられたのかをまとめました。

ペスタロッチーは、家庭のような愛情に満ちた学校をつくることこそが一番大事であると言っています。偏った人間ではなくて調和的に発達するような人間を育てなければならない。この教育思想に私は大変感銘を受けました。この出会いが、私の子どもとの関わりや学校づくりにおいて本当に大きな影響を与えたと思っています。

私が教師になり、夜回りをするようになった二つの原点を紹介します。

一つは、小学校1、2年生の時に私の担任であったベテラン教員S先生です。私は小学校2年生で九九が言えない子でした。九九が言えない私を、その先生はずっと支え続けてくださって、学校の正課が終わると、放課後、私一人を残して、手をつないで、「はい、和田君、1の段からいきましょう。」と言ってくれました。そして「九九、八十一」と言えた時に、S先生は手を離して、拍手をしながら「よく頑張ったね。」と褒めてくださいました。

この先生は、私自身をじっくりと支えてくださっただけでなく、「ゆっくり、じっくりやっていくんだよ。焦っては駄目です。人間は焦ったら失敗します」と教えてくれました。もう一つ、この先生は私に「あなたは、言葉の力はすごい。数字は弱い。人間はそんなものです。あなたには言葉の力があるんだから、九九、八十一が言えないことぐらいで嘆いては駄目です」と言ってくださった。私の教師としてのあり方を教えてもらったような気がします。

もうひとつは、高校2年生の時のK先生。実は、私は高校時代にぐれまして、暴力沙汰も起こして、10日の停学処分を受けました。K先生は物理の先生でしたが、言葉数の少ない、真の理科系の先生でした。停学になった時、私はもう退学処分だろうと覚悟していましたが、この先生は家庭訪問をずっと続けられて、言葉たくさんに説得されるかと思ったら、そうではなく、私の横にずっといながら「和田はそんな男じゃないだろう。もう一回やり直しをしてみないか。」と言われました。

その先生は職員会議で私を守る発言を一生懸命にしてくださいましたと他の先生から聞きましたが、結果として私は復学できました。そして、K先生にお礼を言うと、K先生は「おまえは今から生きていく上で、おまえよりもっと寂しい心になっている子どもと出会うだろう。そういう人に優しく声を掛けてみろ。」と言われました。私は、K先生のその言葉が本当に心に染みまし、K先生のすごさを再認識した瞬間でした。そして、その時初めて教師になろうと思いました。私の父も長く校長をやっていましたし、母も小学校の教員でしたが、私が教員になろうと思ったのは、そのK先生のお言葉を頂いた瞬間です。

教育は奇跡ではなく学校だけでなく地域ぐるみでどれだけの人が真剣に対峙したか

私が最終的に二葉中学校で学んだことをまとめますと、まずは子どもだけではなくて、先生方の自尊感情を高めていくような指導を徹底したつもりです。その結果として、愛情路線に貫かれている学校ができたと思いますし、その成果は甚大でした。そのことをいろいろな出版社が来て二葉中学校を取材してくださいました。内向きで守る姿勢の学校は停滞します。徹底して攻めるために、人材育成を研究の中心に据えてきました。二葉中学校の事例で言いますと、学びに弱さを感じている子が非常に多かった。私が小学校の時に九九が言えなかったのと同じように、学びが怖いものだと捉えている子が多かったので、その逆手を取りました。学びを一点に据えて学校改革をする。この一点突破でやっていく中で、まず先生方を巻き込み、そして全校生徒を巻き込んでいくといった改革をしたことが、私にはいい勉強になりました。

これは私の自慢の写真の1枚です。私が退職する前年のある日曜日、「最近、学校は汚くなったから、今度の日曜日、君たちはボランティアで学校全体をきれいにすることに参加してくれないか」と募りました。トイレの掃除もできなくて、トイレ掃除の会の方に掃除をしてもらっている学校だったんです。ところが、その日曜日に100人以上の子が集まってくれた。まさにボランティアです。そして



学校を徹底的にきれいにしてくれた。それがうれしくて、こういう記念写真を撮りましたが、これは私自身の一つの到達点です。自分たちの学校を、自分たちの地域を自分たちで守るんだという子どもたちが育ってくれたことがたまらなくうれしくて、「全校ボランティアの笑顔」と表して、この写真を掲げさせてもらいました。

教育関係者は「二葉は奇跡を起こした」と言いますが、私は奇跡ではないと思っています。必然的に、その結果が出た、成果が出たと思っています。ある方に『二葉の奇跡』と題して本を書いてみないかと言われた時に、私は「二葉は必然的にこうなったのであって、地域の皆さんをはじめ先生方のおかげでこういう二葉ができた。決して奇跡ではない」と言い通して、本は書いておりません。

私が二葉中にお世話になった時には、生活面でも学習面でも課題は多くありましたし、市内でも学力は低位にありました。朝から晩まで全く授業には参加せずに徘徊(はいかい)している子や、廊下で寝ている子、逆に夜中遊んでいる子どもたちが存在している学校でした。

まず、どこから着手したかお話しします。二葉中学校には校訓がありません。校訓がない学校で、みんなで何か一つ、心のまとまりをつくりたいと考えました。そうして、二葉の「F」という頭文字を取って「ファミリー」「フレンドリー」「フューチャー」の三つを合言葉にしようということになりました。「家族のような存在なんだから、暴力的な関わりや暴言はやめようね。そして、過去はいろいろなことがあっても、犯罪歴があっても、校長も先生方も問わない。これからの未来をみんなでつくっていこう」と言いたかったわけです。それを現校長で当時の教頭であった福馬先生は大いに気に入ってくれました。当時、必ず私は毎朝全校を巡回していましたが、合言葉を決めた次の日、学校の各所に3つの合言葉と「ゆっくり、じっくり、くり返し、自分を変える、未来を創る」というスローガンが掲示してありました。素晴らしい教頭先生です。私は涙を流しながらも燃えました。その掲示を見て「絶対に二葉を変えてみせる」という気持ちになったことを今でもよく覚えています。

もちろん、この合言葉だけで簡単に子どもたちは変わりません。「はい、皆さん、校訓の代わりにこの三つのFです。頑張りましょう」「校長、頑張るよ」と、そんな柔な学校ではありません。私はこういう言葉を合言葉にしました。私がS先生から学んだことです。「ゆっくり、じっくり、繰り返し、焦るな、自分を捨てるな」、そして「自分を変えていこう」。相手を変えさせようとかいうのではない、自分から変えていこう。そして「過去を捨てて未来をつくっていこうじゃないか」ということを、入学式、始業式とあらゆる場面で言い続けました。

先生方とも徹底的に研修会を行いました。大事なことは、学力を向上させるための学習習慣をつくること、あいさつもできないような生活習慣をどう変えていくかということ、先生方と徹底的に研修をして学校がばらばらの状態にならないように努めました。そして、一番力を入れたことは「まちぐるみの教育」を推進したことです。これは私が二葉中学に行く前から、広島市教育委員会が指定していた「絆プロジェクト(まちぐるみ『教育の絆』プロジェクト事業)」です。地域と一緒にあって学校を変えるというものですが、私はそれをさらに拡充していこうと考えました。

校長室の横に地域の方に常駐していただいて、いろいろな課題を持った子どもと向き合っただきながら教員の指導を見ていただく。そして、子どもの指導については、もちろん教員も応援しますが、地域の方から声を掛けていただいて子どもたちが勉強するという仕組みを実践しました。

これは甚大な効果がありました。教員が「勉強しろ」と言ってもうそぶく子が、子ども会や小学校の頃から読み聞かせやいろいろな行事で子どもたちと関わっている方々が「何とか頑張ってみようよ」と言うと、子どもは一生懸命に頑張る姿を見せます。そして、難しい問題があつて

「先生、助けて」と言えば、先生もそこに飛んでいって教え合う。こういう地域と学校が一体となった学びのシステムが大きく二葉を変えたと思っています。

赴任して2年目を迎える頃、先生が一方向的に話している授業が、自主的に子どもたちが前に出て説明をするような授業に変わっていきました。全校集会でも整然と当たり前前に並ぶ子どもたちになりました。私は1年でこんな状態になるとは思ってもいませんでした。

子どもたちには、小さな班でみんなで学び合ったり、生



活面で話し合ったりということを大事にさせた。また、毎週金曜日は全校でボランティア活動を行いました。全校をきれいにするというボランティアを自主的に実行できるように、数値目標を取り入れました。当時は毎週末100人のボランティアを目標にしました。生徒会担当の若い先生が「1年生は何人、3年生は何人でした。2年生はもっと頑張ってください。」と数値目標をあげながらボランティアを推進したことを覚えています。

絆プロジェクトでは、テスト前には地域の人と一緒に勉強をします。授業終わりの16時～17時の時間帯や、今は冷房が入っているので、夏休みの期間もやりました。夏



休みも塾に行けない子はたくさんおります。二葉中学校はご存じのように駅裏にあります。福祉施設とか医療施設といったものと併設された中学校です。そして夜間学級もあり、外国から来られた生徒さんもいらっしゃいます。環境的に非常にカオスのような学校です。その中で、塾にも行けないような子どもたちが自主的に集い、年間を通して3分の1くらいの期間を地域の人と一緒に勉強をしていく運動がどんどん広がっていきました。

単に勉強だけではなく、「おばちゃん、ちょっと相談に乗って」ということもあります。子どもたちは、特にネット上でのトラブルといったことを、教員には言えなくても地域で信頼できる方には相談します。これは「ひだまり学習会」と名付けていましたが、定期的な勉強だけではなく、心の栄養を与えるような地域ぐるみの学習会も行いました。

掲示物があるとすぐに火をつけられて燃えるという状態だった学校に、みんなが学習を大事にしようということで掲示物を増やしていきました。私が言った「ゆっくり、じっくり、繰り返し」というスローガンやあいさつを大事にしましょうというもの、そして、自分の学習をこのようにしていきましょう、悪いことを表示するのではなく、特に頑張っているクラスや個人のやっていることなどをどんどん学校の中でオープンにしていきました。競い合うのではなく、うちの学校はこういうことを大事にしていると掲示したわけです。火をつけられるかなと心配していましたが、全く逆でした。

つっぱっている生徒たちを私が一人ずつ校長室に呼んで話をしていると、「校長、今、何をやったら喜ぶ?」と聞いてくれるんです。「今ね、自主学習をやってくれたらうれしいんだよね。」と言うと、「俺はできないけど、分かった。発破を掛ける。」と言って、全校集会などで「何でわたしのクラスはこんなに低いんじゃ。もっと勉強せえ、おまえら。ばかになるぞ。」とか言うわけです。これが、また二葉の子の面白さですね。人に喜ばれることは一生懸命に応援してくれるんです。それがどんどん底上げをしていきました。

私が赴任して3年目の平成27年度、自主学習に取り組ませた記録は、まさに右肩上がりになりました。1月になると、1か月の自主学習時間が100時間以上の子が、当時の全校生徒は620人ぐらいのうち140人を突破しました。中には300時間というすごい子もいました。

私が思うのは、学習は質より量です。学習習慣が全くない子どもたちに徹底的に学習時間を確保したら、この子たちは伸びるに違いないという仮説が私の中にありました。それが見事に当たったのか、学力は恐ろしいほど上がっていきました。

私自身が二葉中学校の実践を振り返ると、まずは子どもたちに「やってみよう」という自尊感情を育てることでした。100時間以上の子どもたちには、校長は毎月握手をして感謝状を渡してきました。その時の子どもたちは誇らしい顔をします。そして、最高の時間数を確保した子がスピーチをしてくれるようになる。そういう子は、意外と才能があるような子どもではなく、本当に地道に努力する女の子が多かったんですが、「私でもこうやって感謝状がもらえるんです。皆さん、もっと頑張りましょう」と言ってくれました。それが、また学校全体を変えていきます。地域の皆さんに応援をしていただきながら、一体となって学びに向き合っていたことで学校全体が変わっていったということです。

教員は必死になって授業の方法を考えていきました。でも、先生方には申し訳ないが、決定的に変えたのは子どもたちの学習習慣です。自己記録を出していくときに、ネットとかいろいろなものに時間を取られていたら、その記録は書けないはず。塾に行かない子も多いんですよ。なのに、子どもたち自身は、なぜ200時間、300時間

という学習ができたのでしょうか。子どもたち自身がみんなで頑張っ、勉強から逃げない、勉強に向かっていくという意思を表してくれたから、学校の状況は大きく変わったと思っています。

夜回りから学んだこと

よく「変わったもの、変わらないもの」と言われますが、私は子どもたちの純粋な気持ち、可能性を求める心は変わっていないと断言できます。では、変わったものは何か。それは世の中の仕組みです。ネットの普及により、急激に変わっていきました。最近の大人の犯罪はどうでしょうか。テレビを見ているにも見るに堪えないような犯罪が相次いでいます。それらに子どもたちは日々大きな影響を受けているということを忘れてはいけないと思います。ネットで大変便利な世の中になっているけれども、子どもたちを支える一番大事な栄養はリアルな愛情に尽きます。本当の愛情には手間暇がかかります。

学校教育だけでは無理なことが多々あります。たった一人でも愛情を持って問題を抱える子どもたちに向き合っていただくと、その子たちは音を立てて変わっていきます。

「みんな助けてほしいと心の中で思っている」「自分のよいところを教えてください」「自分たちの立ち直りをずっと待っていてほしい」「本当は人に恩返しをしたり、役立つことをしていきたい」「子どもたちの見本になるような大人になりたい」。これは、少年院に行ったとか犯罪少年になった子どもたちが私と関わる中で言ってくれた言葉です。その立ち直ろうとする子たちは、こういう気持ちを持っているんです。

私に対して「どうせ無理よ」とか「死ぬ」とか、さらに私自身が教師くさいことを言いますと「あほ」「ぼけ」「殺すぞ」と迫ってきていた彼らですが、それは表面的なことでした。長く付き合っていくと先ほどのような言葉を彼らは言うわけです。

子どもは、どんな子であっても、勉強ができてできなくても、抱えている課題を乗り越えていく中で成長していくものだと思っています。私も親の勤めで高校から進学校へ行き、アパートで一人暮らしを始め、その寂しさから、ついに高校2年生の時に喧嘩ざんまいのような生活をしてしまい、処分を受け、その時に目が覚めました。でも、目が覚めたときに、先ほど申し上げたK先生のような私をずっと支えて待ってくださる先生がいらしたから、私は立ち直れたと思っています。そういう失敗をしても、その子どもを支え続けるような大人がいて家族がいてほしいと私は思います。

明るく元気に笑顔であいさつから入って、子どもたちの話を聞くところから始まり、その子自身にやたら携帯電話を掛けて問いただすのではなくて子どもからの自主的な連絡を待つという、立ち直りを信じて、待つことが大事だろうと思っています。

一人の少年を紹介します。彼は本当に警察をうならせたほどの大きな犯罪に関わった少年でしたし、今なお不安定な面があり、私自身が今でも心配している少年です。警察本部をはじめ、いろいろな方に支えていただいたことのお礼を込めながら、あえてここで、この少年のことについて語ってみたいと思います。

この子は、多感な小学校の高学年になってから、最愛のお母さんを病気で失ってしまいました。勉強もできる男の子です。仮にリツオとします。このリツオが、私学受験に失敗し、そして諦めたように公立学校に入ってきました。私は当時、担任ではなく学年主任でした。国語の教師としてこの子の授業に参加しながら、この子が力を持っていることは確認できました。ただ、彼はお母さんがいなくなったことの寂しさと、お父さんが非常に厳しい人であったことから、本人自身が自尊心をなかなか持てていない状況でした。

そして、彼自身が自分の力を見せつけたいということから、中学校の後半から暴走族に入っていきます。高校時代も登校せずに、特攻服を着て暗躍をし、さらに面倒見にまでなっていました。面倒見というのは、いわゆるやぐざです。それからは薬物の運び人となり、自らもそれを服用し、犯罪少年となってしまいました。

ある時、夜中の2時ぐらいに私の携帯電話が鳴りました。「薬物も暴力団もやめたい」と。もう一度やり直したいという気持ちは多少あったんでしょうけれど、彼の本当の願いは、和田だったらどこか遠くに逃してくれるだろうと思っていたんじゃないかと思います。犯罪ですから逃がすわけにはいきません。警察やボランティアの方と相談しながら、彼に会って話をしました。

彼は逃げたいばかりだなと話を聞きながらそう思い、「君が出頭したら、お父さんは本当に安心して喜ぶぞ。」と言った時に、彼の顔つきが変わりました。そして、自ら出頭して逮捕されるわけですが、その時の彼の言葉は「お父さんを喜ばせたい」というものでした。やはり長い付き合いの親子の関係というのはすごく重たいものだなと

私は教えられました。それまで、土曜日の夜に私が夜回りをしているときに、彼は黒いスーツ姿で暴力団として私の前に現れていました。そのたびに「先生、1,000円貸して。」「2,000円貸して。」とか、みみっちいことを言っていたわけです。ボランティアの人の応援もあって一緒に夕食などを食べると、暑くもないのに「暑い、暑い」と上着を脱いだり、シャツをまくし上げたりしていました。すると、全身入れ墨になっていましたので入れ墨が見える。私は教師として極めて不愉快でした。なぜそんなものをあえて見せるんだと、自慢したいのかと。でも、ここがポイントですね。私は一人で夜回りをするのではなく、いつもボランティアの人たちと集団で歩いていましたので、あるボランティアの方が貴重なアドバイスを私にしてくださいました。「和田さん、違うんじゃないか。彼はひょっとしたら、あの入れ墨を見せながら『先生、助けてよ』と言っているんじゃないか。」と。その1週間後です、夜中の2時に携帯が鳴って「組を抜きたい。」と言ったのは、ですから、やはり少年を見る目も、いろいろな方々の目があってこそで、私はそれに助けられたと本当に感謝しています。

その後、彼は真面目に更生をして、少年院を出て、建設会社に入って真面目に仕事をしておりました。高校に行きたいという彼の思いを応援するため、全身入れ墨でも入れる高校を探すと京都のとある高校を見つけました。私もその学校に行ってお願いをし、彼を高校にも大学にも行かせました。

ただ、その後も彼が失敗をしたという情報を聞いて、なかなか自立はうまくいかないなどは思っています。

しかし、彼自身が「族も組も俺を使うだけ。信じることはできなかった。」「学校の制服を着ているやつがうらやましくてたまらなかった。」「薬物は怖い。絶対に手を出してはいけない。」「俺のようなやつを増やさないように、先生、頑張ってや。」と言った言葉は、今でも忘れてはいけないと思っています。

もし、その地獄に落ちた彼を支えたものがあるとすれば、私は人間関係だと思っています。信頼できるボランティアさん、警察の方々、本当にたくさんの人たちの支えがあったこと。そして、厳しいばかりだったお父さんとは私もずいぶん話をさせていただきましたが、お父さんも一生懸命に子どもに向き合って頑張っておられたなど。お父さんは私がいろいろと話をするたびに吐くほどに苦しんでいました。全身入れ墨になってしまったとか、覚醒剤をやっているよというときに、「先生、ごめん。」と言って、トイレに行って吐いていました。本当に悩んでおられたんです。私はこのお父さんを支える存在にもならなければと思いました。そうした多くの人々の支えで、彼の一生は大きく崩れなかったと思います。

今、ネットが急激に進行しています。去年の内閣府の調査では、10歳未満の子どものネット使用率は約6割に迫っている。もはやゼロ歳児からネットに触れています。子どもたち自身がネットに深くはまっています。今、ネット使用の低年齢化が進み、特に携帯電話を巡ってのトラブルの数は大変増えています。おそらく警察の重大な事件も、全て背景にはネットがあると思っています。とても便利だけれども、これほど恐ろしいものはないと思っています。

暴言かもしれませんが、ネット、SNSというのは薬物、覚醒剤と同じようなものです。そんな刺激の強いものを安易に青少年に与えている現実があります。これをどう乗り越えていくかというのは、学校だけでは無理です。子どもたち自身を守るために、私は薬物的な害を持つネット、SNSにきちんと向き合える大人が増えてほしいと思っています。

私が知っているネットの害悪を受けた子どもたちは、まさに覚醒剤と一緒にです。睡眠できない、睡眠途中で覚せいして起きてしまう。ひどい場合は、ベッドで暴れたりジャンプしたりする。そして精神的に不安定、精神障害を起こすという子どもが現実にいるのです。体の異常もあります。今、学校ではこういう問題をたくさん抱えています。私は、学校のほとんどのトラブルは今やネットから起きているということをオープンにして、皆さんに助けをいただきたいと思っています。

大人の姿勢が今問われています

大人が変われば子どもは変わります。親を責めたり、子どもを責めたりする前に、その子どもや家族に向き合う一人の素晴らしい人間として対応していただけたら感謝します。二葉中学校が広島市内でトップクラスの学校に変わるとは私自身が想像できなかったぐらいですが、地域ぐるみで取り組むことで、子どもたちは想像以上の力を発揮しました。私が二葉中学に行った時は、地元の小学校から上がる率は約5割でした。今は8割を超えています。それぐらい地域の皆さんの支えというものが学校自体をちゃんとさせてくれたということに、心から感謝しております。ありがとうございました。

令和元年度 青少年育成県民運動推進大会

令和元年11月2日（土）、広島県民文化センター多目的ホールにおいて、青少年育成県民運動推進大会を開催しました。



大会次第

【開 会】

◎国歌斉唱

◎開会あいさつ

（公社）青少年育成広島県民会議会長

◎来賓祝辞

広島県知事

広島県議会議長

◎表 彰

青少年健全育成成功労者等知事表彰

「家庭の日」に関する作品の知事表彰

【少年の主張意見発表】

「少年の主張」・中学生話し方大会2018

広島県知事賞受賞

国立青少年教育振興機構努力賞受賞

「手話は言葉」

広島市立基町高等学校1年 大森葉和さん

【青少年活動発表】

「三井権八と布野の『もののけ』～布野妖怪めぐり」

（三次市立布野中学校）

「落語」（布野放課後子ども教室）

【演奏会】

出演者 大野 豊さん 神田康秋さん

「野球から学んだこと」

【閉 会】

◎閉会あいさつ

（公社）青少年育成広島県民会議副会長

式典では、主催者を代表して、（公社）青少年育成広島県民会議 うえだ だそうけい 上田宗岡会長が開会のあいさつをしました。



上田会長あいさつ

続いて、来賓の広島県知事代理の環境県民局長 もりなが ち え 森永智絵様、広島県議会議長 なかもと たかし 中本隆志様からご祝辞をいただきました。

次に広島県知事表彰として、永年にわたり青少年の健全育成に力を尽くした方々や団体、模範的な活動を行っている団体を表彰しました。また、県内の小・中学生から応募があった「家庭の日」に関する作文・図画の特選に選ばれた4人に県知事賞を授与しました。

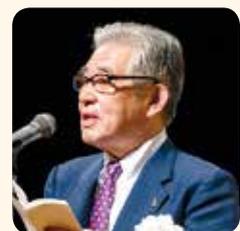


知事祝辞
（代理森永環境県民局長）



中本議長祝辞

終わりに、（公社）青少年育成広島県民会議の徳弘親利副会長が開会のあいさつを行い、すべてのプログラムが無事に終了しました。



徳弘副会長
閉会あいさつ

令和元年度青少年健全育成成功労者等知事表彰受賞者

(青少年健全育成成功労者24人)

いずは かずのり (三次市) おか き ことおる (広島市) おぐち ゆうこ (広島市) かみたに けいじ (広島市) かわばた かつゆき (呉市)
 きしちと よしお (広島市) きょういずみ みえ (尾道市) くまたか りょうじ (安芸高田市) しまた ゆうじ (尾道市) じょう たけやす (呉市)
 たけだ あきのり (広島市) ないとう くにお (広島市) なかちと みつや (広島市) ほしね やすのぶ (広島市) ひらた たつお (広島市)
 ぶんど ひろかみ (尾道市) ほりい せいこ (東広島市) まつぼくち よしや (広島市) まつやま ちかこ (尾道市) ますい こういち (広島市)
 みと ぼつと (呉市) やまさき あきお (北広島町) やました みつよし (呉市) わたりに のぶひさ (三次市)

(育成功労団体3団体)

こけんかいこうち しぶ (五剣会河内支部スポーツ少年団(広島市))
 きつき おかじょうどう (五月が丘柔道スポーツ少年団(広島市))
 ほねじょう い こかくら ほろんかい (勿条亥の子神楽保存会(坂町))

(模範活動団体2団体)

くれがくゆうかい (呉学友会(KSF部会)(呉市))
 ひがしひろしま ちく (東広島地区BBS会(東広島市))



令和元年度「家庭の日」に関する作品の知事賞受賞者

(作文の部)

特選 東広島市立寺西小学校2年 市位 里佳子
 特選 広島市立五日市中学校1年 井上 咲希
 特選 広島市立瀬野川東中学校1年 瀬川 夏愛

(図画の部)

特選 三次市立みらさか小学校2年 高橋 悠菜



(敬称略、順不同)

青少年活動発表

三井権八と布野の『もののけ』～布野妖怪めぐり（三次市立布野中学校）

平成30年度布野中学校第1学年の生徒5人が総合的な学習の時間に、布野町の魅力をPRする絵本を作成しました。三次市に伝わる昔話「稲生物怪録」に登場する三井権八は布野町出身の相撲取りです。また、布野町の民話には、様々な『もののけ』が登場します。三井権八と布野の『もののけ』が登場する物語を創作したときのことを作品とともに発表しました。

発表者／2年生
 かわぐち ひなみ さとう はる
 川口 陽美さん 佐藤 花さん
 ふくま ゆう ますい ほあと
 福間 結蘭さん 増井 心翼さん
 よしざと のぞみ
 吉迫 希美さん



布野放課後子ども教室 落語

布野小学校の放課後や夏休みなどに、子どもの安全な居場所づくりと「学習」「体験」「交流」活動を目的に開設しているのが布野放課後子ども教室です。落語については、人前での発表が子どもの成長に良い経験になるとして、ステージ出演を活動の中心に据えています。落語への取り組みも5年目を迎え「落語がしたい～！」と希望する児童5人が毎週水曜日、古典落語や「もののけ落語」の練習に励んでいます。本大会では4年生と5年生の2人が高座に上がり、会場の皆さんを笑いの世界に引き込みました。

出演者／平佐 穂乃花さん(布野小4年生) 芸名：浮沼亭ほのか
 おだ まなみ
 小田 愛実さん(布野小5年生) 芸名：浮沼亭まなみ



浮沼亭ほのか「かんべんしてください」



浮沼亭まなみ「皿屋敷」

少年の主張意見発表

「少年の主張」・中学生話し方大会2018
 広島県知事賞受賞・国立青少年教育振興機構努力賞受賞
「手話は言葉」
 広島市立基町高等学校1年 おおもり はな **大森葉和さん**

※受賞時は東広島市立八本松中学校3年

昨年度開催した「少年の主張」・中学生話し方大会2018において広島県知事賞を受賞した広島市立基町高等学校1年大森葉和さんが手話について体験し、実行したことを発表しました。



トークショー「野球から学んだこと」

元広島東洋カープ投手で現在NHK野球解説者の大野 豊さんとフリーアナウンサーの神田康秋さんによるトークショーでは、野球を通じて大野さんが学ばれてきたことを神田さんの軽快なリードで披露いただきました。人生を前向きに生きるための考え方がおふたりの会話の随所に盛り込まれた楽しいひとときを満喫しました。



おおの ゆたか
大野 豊さん

1955年島根県生まれ。出雲商業高校から出雲市信用組合（軟式野球）を経て、77年にテストを受け広島東洋カープに入団。「七色の変化球」を駆使し、88年に最優秀防御率のタイトルを獲得し、沢村賞を受賞。91年には最優秀救援投手となる。97年にセ・リーグ最年長完封勝利（当時）を達成し、42歳で再び最優秀防御率のタイトルを獲得。98年限りで現役引退。99年に広島東洋カープの投手コーチを務めたあと、2000年からNHKの野球解説者に。04年にはアテネオリンピック、08年には北京オリンピック日本代表チームの投手コーチを務める。10年から広島東洋カープの投手コーチを務めたあと、13年から再びNHKの野球解説者に。同年、野球殿堂入りを果たした。



かんだ やすあき
神田 康秋さん

1951年広島県安芸郡府中町生まれ。75年にテレビ新広島開局と同時にアナウンサーとして入社。79年にはフジテレビ系列にて史上最年少（26歳）で巨人戦実況デビュー後、ワールドカップバレーボールで世界最優秀放送賞を受賞する。プロ野球ニュースメインキャスター、みのもんた氏に代わり「プロ野球珍プレー好プレー大賞」のナレーションを担当するなど名物アナウンサーとして活躍。そのほかの主な番組には「どっこい！神田の日めくりテレビ」、「釣りごろつられごろ」、「FNNスーパーニュース」など。現在はフリーアナウンサーとして、広島のみならず全国において、メディアをはじめ多方面で活躍中。

令和元年度 市町民会議ネットワーク 研究会

日時 令和元年10月25日(金) 13:00~16:00

会場 広島グリーンアリーナ(広島県立総合体育館)地下1階 大会議室(広島市中区基町4-1)

テーマ 「今日から始めるリスクコミュニケーション」

災害や事故が起きた時、とっさに命を守ることができるでしょうか。

日々の訓練をより有効に地域で共有するため、身近なリスクを再認識し、役割や手順を確認すること=リスク・コミュニケーションが注目されています。

この研究会では、ゲームを通して楽しみながら『リスク』について学びます。

日程	13:00	開会あいさつ (公社)青少年育成広島県民会議副会長 江種則貴
	13:10~13:40	基調講演
	13:40~14:30	演習I 標語から考えるリスク「情報モラルかるた」 <休憩>
	14:45~15:10	演習II 災害のリスクを考える「ひろしま防災Jカード」
	15:10~15:40	演習III “あたりまえ”を再認識する「シャッフル」
	15:40~16:00	まとめ、ふりかえり
	16:00	閉会

講師・ ファシリテーター

広島大学大学院総合科学研究科 准教授 ^{ひきた あつし} 匹田 篤 さん
広島大学大学院 ^{かわさき 梨江} 川崎 梨江 さん
(公財)ひろしまこども夢財団 ^{あいはら みえこ} 相原 美恵子 さん



今日から始めるリスクコミュニケーション

ひま た あつし
 田 篤 (広島大学大学院総合科学研究科 准教授)

リスクを自分ごととして捉えられるか

私たちの生活の中でのリスクを考える上で、リスクを自分ごととして捉えないこと、自分は大丈夫だと過信すること(正常性バイアス)が、結果として被害を大きくしていると考えられています。

2018年7月の西日本豪雨災害でも、なぜ避難しない人が多いのか、問題になりました。私自身も、災害時にテレビやラジオといったマスメディアの情報だけでなく、ネット上の様々なデータを見ていました。それは何のためか、というと、自分の身の危険というよりは、家族が無事に帰宅できるか、明日電車が動くか、高速道路は大丈夫か、という心配のためでした。

もし、テレビやスマホが使えなかったら、どうしていただいでしょう。とても不安になっていたと思います。マスメディアやネットから情報を得るのを諦めて、外の様子を、雨の音や風の強さ、雲の動きや道路の様子を自分で観察して、この後起きることを自分で想像してはいたはず。はたして、テレビやスマホがあれば、私たちは、こういうことをしなくてもよいというのでしょうか。

確かに、AIなどで数値データを細かく分析して、ピンポイントに警報が出せるようになるかもしれません。しかし、私たちはそれで逃げようと意を決するでしょうか。外は大雨です。通常の雨の日にコンビニに行くのだからためらう我々が、ずぶ濡れになることを承知で逃げるとするのは、相当な覚悟を要するでしょう。他人には電話やSNSで「逃げる」というのに自分は逃げない。自分は大丈夫だと思いたい。そういう心理が働きます。これ正常性バイアスといいます。

リスクは災害だけではなくありません。私が研究対象としている中でも交通安全や街路の安心安全、電子メディアのリスク、特に小中学生と電子メディアのリスクなどがあります。

いずれのリスクも、情報メディアの普及により、情報が広く細かく得られるようになったものの、市民はその情報を「身の回りのリスク」と

捉えない傾向があるのです。

リスク認識の五つの段階

市民がリスクをどのように認識しているか、京都大学の楠見先生(認知心理学)が五つの段階に区分けしています。このリスク認識の五つの段階について紹介しましょう。

リスクの同定	リスクの存在の認識、楽観主義バイアス
リスクイメージの作成	恐怖イメージ、未知性のイメージ(報道の頻度と内容、読み解くリテラシー)
リスクの推定	統計や理論による専門家の推定、ヒューリスティックな(直感的な)推定—認知バイアス
リスクの評価	リスクの受容可動生、リスクと便益、ゼロリスク要求
リスクコントロール	リスクコミュニケーション、安全教育、防災教育

1) リスクの同定

そこにリスクがある、リスクの存在を認識することです。しかし、自分には関係ないだろうという、楽観主義バイアスが働くことが多いです。

2) リスクイメージの形成

リスクに対して怖いと感じるようになる段階です。報道などで恐怖イメージは形成されます。何が起るかわからないから怖いという場合もあります。

3) リスクの推定

統計や理論をもとにしたリスクの推定をする段階です。専門家の意見や百年に一度という言葉で、私たちは直感的にリスクの大きさを判断します。

4) リスクの評価

私たちはリスクと便益を天秤にかけます。リスクとコスト、さまざまなメリットを勘案して、私たちはリスクを評価します。

5) リスクコントロール

リスクがゼロにならないのであれば、その代わりとなる対策、例えば保険に入る、などの手段もあります。訓練や教育でリスク

の可能性を下げたり、被害を最小限に止めるといったことをします。これをリスクコントロールと呼びます。

リスク・コミュニケーションの必要性

リスクを再認識し、行動や役割を確認する作業をリスク・コミュニケーションと呼びます。

テレビや新聞などでも、災害は伝えられます。マスメディアの得意な領域は上の二つ「リスクの同定」と「リスクイメージの形成」です。一方で下のほうの「リスクの推定」や「リスクの評価」「リスクコントロール」は、同じ町内に住んでいても自分の年齢や体調、家族構成や住居の環境によって異なります。一人一人が自分で考えなければならない事柄です。

おおよそ30年で地域の半分は入れ替わると考えてよいでしょう。30年後には私たちの体力は着実に低下します。子供が1年でできることが増え、地域の頼れる存在になります。町の施設や構造も変わります。電子メディアなどでは新しい手口が次々と出てきます。想定するべきリスクも増えるでしょう。

このような様々な理由により、私たちは1年に一度はリスクを再確認し、行動や役割を再確認する作業(リスク・コミュニケーション)をすることが必要なのです。

余暇の中でリスクを再認識する

リスク・コミュニケーションでお伝えしたいことは三つあります。

一つ目は、まずはリスクの存在を知るだけでもよい、ということ。二つ目は、身近なリスクは、身近な人が知っているということです。

そして三つ目は1人でやらないということ。私たちは他人に対しては厳しいチェックができる人が多い。隣の人とお互いにチェックし合うことが大切です。

そして、これを訓練、教育としてしまうと長続きしません。そこで、余暇の一環に組み入れることをお勧めしています。

例えば小学校の校庭でやる花火大会。花火大会のために、防災バケツや仮設トイレを確認しましょう。バケツリレーの訓練もできるでしょう。児童・生徒に任せられる役割を確認するよい機会です。炊き出しや、校庭にテントを張って一晩過ごすというのもいいかもしれません。同様に校

庭や公園でのキャンプも有効だと思います。

ゲームを用いたリスク・コミュニケーションのすすめ

リスク・コミュニケーションをカードゲームでおこなうことも効果的です。ここでは三つのゲームを紹介しましょう

1)情報モラルかるた

群馬県の上毛カルタをヒントに、情報モラルかるたとして、私のゼミで3年前に作成しました。このかるたは、通常のカルタとしての遊びだけでなく、絵札をとったあとに、読み札を取り合うルールをつくりました。読み札は、その内容に基づいた身近な事例を出し合って、もっともためになったと読み手が評価した人に渡すというルールです。これは身近なリスクの共有がねらいです。

身近なリスクが出てくるように、言葉や絵を工夫することができます。地域ごとに情報モラルかるたが作成されるようになることを願っています。

2)「防災教室『ひろしまJプログラム』」の「ひろしま防災Jカード」

広島でのリスク共有の取り組みとして「防災教室『ひろしまJプログラム』」に注目しています。プログラム内の「ひろしま防災Jカード」は子育て世代の災害や避難所での実際の体験を基にした選択式のクイズです。いろいろな立場で防災を捉えるのに、とてもよいカードゲームです。

3)防災カードゲーム「シャッフル」

「応急手当」「防災知識」「救護・救助」「サバイバル」のジャンルから合計12種類の防災知識を、それぞれ4枚のカードを正しい順番に並べるゲームです。例えば消火器やAEDの手順など、わかっているつもりでも、意外とわからないことを楽しく再確認することができます。

リスク・コミュニケーションは、一度に成果を期待するのではなく、根気よく、そして長く続けることが必要です。日常生活や生活空間での余暇の時間に取り入れる活動にヒントがあります。地域の活動でのヒントにしていれば幸いです。

ひろしまドリームプロジェクト ～オリンピックに夢を乗せて～

小学生を対象に、プロスポーツ選手等による講習会・実技指導等を開催し、きたる2020年のオリンピックに夢を乗せて、青少年の体力向上と機運の醸成をはかり、心身ともにたくましい青少年の健全育成に資することを目的に、令和2年度までの5年間、毎年2種目のスポーツを選び、県内各地で開催しています。

令和元年度は「陸上」と「ハンドボール」を実施しました。

陸上教室

開催日：令和元年7月23日（火）13:30～15:30

会場：呉市総合体育館（シシンヨーオークアリーナ）

指導者：中国電力株式会社陸上競技部 選手7人

参加者：広島県内の小学生219人

共催：呉市文化スポーツ部文化振興課、呉市青少年補導員連絡協議会

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）、一般財団法人広島陸上競技協会

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



ハンドボール教室

開催日：令和元年7月30日（火）14:00～16:00

会場：グリーンアリーナ（小アリーナ）

指導者：イズミメイプルレッズ 選手5人

参加者：広島県内の小学生28人

協力：NPO法人広島トップスポーツクラブネットワーク（トップス広島）、広島県ハンドボール協会

協賛：広島県遊技業防犯協力会連合会



明るい家庭の日運動

令和元年度「家庭の日」に関する作文・図画

健全で明るい家庭は、家族みんなで話し合い、家族みんなで楽しみ合い、家族みんなで力を出し合うことによって築かれます。

青少年育成広島県民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として定め、明るい家庭づくりの運動を展開しています。

この運動が広く地域に浸透し、多くの家庭で実践されることを願って、県内の小・中学生を対象に募集を行い、県内の小学校54校、中学校38校から作文・図画を合わせて2,034作品の応募がありました。

これらの作品は、日常生活において家族と自分とのかかわり方で感動したこと、家族に感謝している心や存在の大切さなど、自分の気持ちを素直に純粋に表現しています。

審査の結果、特選作文3作品、特選図画1作品、入選作文19作品、入選図画5作品が選ばれました。

令和元年度「家庭の日」に関する作文・図画入賞作品 入賞者

作文の部

●特選（広島県知事賞）

東広島市立寺西小学校	2年	市 位	里佳子	「家ぞくの音」
広島市立五日市中学校	1年	井 上	咲 希	「思い出の鉛筆」
広島市立瀬野川東中学校	1年	瀬 川	夏 愛	「私の家族」

●入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

広島市立牛田小学校	1年	井 上	朔太郎	「おかあさんのくちぐせ」
尾道市立向島中央小学校	1年	田 窪	心 暖	「ぼくのかぞく」
福山市立御幸小学校	2年	緒 方	陽 和	「じいちゃんのさいごのはちみつ」
三原市立糸崎小学校	2年	豊 島	圭 吾	「かぞくみんなでこめづくり」
東広島市立西条小学校	2年	古屋敷	有 人	「ぼんおどりを楽しむぼくの家ぞく」
東広島市立三ツ城小学校	3年	古 田	知 大	「ぼくの家ルール」
東広島市立三ツ城小学校	4年	高 松	ひなた	「母に伝えたい「ありがとう」」
東広島市立小谷小学校	4年	永 見	心	「はなれていても感じる家族愛」
東広島市立寺西小学校	5年	喜々津	輝 季	「思い出の登山」
東広島市立西条小学校	5年	福 原	希 空	「家族のきずな」
広島市立宇品小学校	5年	藤 井	舞 桜	「ひいじいちゃんの赤い梅」
竹原市立竹原中学校	1年	中 斐	芭瑠真	「兄の背中」
東広島市立中央中学校	1年	川 野	稔 真	「家族の夢を叶えた妹」
広島県立広島叡智学園中学校	1年	黒 木	碧 恵	「寮生活をして気づいたこと」
呉市立東畑中学校	2年	朝 重	佳奈子	「一つ」
広島市立五日市中学校	2年	永 井	珠 々	「もしも…」
東広島市立中央中学校	2年	北 條	羽 菜	「今を精一杯生きる」
東広島市立松賀中学校	2年	向 井	亜紗実	「感謝の気持ち」
広島市立牛田中学校	3年	山 城	蓮	「理想の家族」

図画の部

●特選（広島県知事賞）

三次市立みらさか小学校	2年	高 橋	悠 菜	「じいじのすいかがとってもおいしかったよ。」
-------------	----	-----	-----	------------------------

●入選（公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞）

福山市立西小学校	1年	坂 口	莉央夏	「しまねけんのたきをみにいったよ。」
福山市立御幸小学校	3年	山 南	璃 歩	「家族のおうえんで、乗れたターザンです。」
東広島市立西条小学校	3年	宮 信	聡 大	「いとこの赤ちゃんと花火をしたよ。」
呉市立昭和北小学校	4年	中 本	利 埜	「家族みんなでバーベキューをしました。」
福山市立鳳中学校	3年	藤 原	春 奈	「みんなと一緒に食べるご飯が1番おいしい。」



家ぞくの音

東広島市立寺西小学校 2年 いちいりかこ 市位 里佳子

お母さんに、ぎゅうってしたよ。ふにゃふにゃ、あつたかい。
 どくどく
 どくどく
 むねのまん中で音がしたよ。聞いていたらねむくなってきたよ。
 お父さんにも、ぎゅうってしたよ。ごりごり、かたい。
 どく どく
 どく どく
 ゆっくりうごいている音がしたよ。お父さんが声を出すと耳がぶるぶる、びりびりふるえたよ。びっくりして、2人でわらったよ。
 お姉ちゃんとぎゅっとだきあったよ。それだけで、2人でわらったよ。
 とくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとく
 お姉ちゃんの音は、すごくはいいよ。何でかなあ。お姉ちゃんは、元気だからかな。
 自ぶんの音は、どうやって聞けばいいのかな。目をつぶって、手をむねにあてて、じいっとしていたら、
 とくん とくん
 とくん とくん
 手のひらで音を聞いたよ。
 家ぞくみんなちがう音。
 ゆっくりな音、おちついた音。
 はやい音、元気な音。
 いろんな音があっておもしろい。
 お母さんにおなかにいるときのしゃしんを見せてもらったよ。「ピクピク元気にうごいているよ。」と書いてある。お母さんは、それを見て、とてもうれしかったんだって。
 お姉ちゃんのしゃしんには、「ピクピクンうごいています。」姉妹でも、ちがう音だったのかなあ。おなかの中にいるときから、ずっと休まずうごいている。すごいなあ。
 もう1まい、しゃしんを見た。わたしの、弟か妹のしゃしん。どちらかわかる前に、ピクピクンがとまっちゃったんだって。
 はじめて知って、かわいそうで、なみだがとまらないよ。あいたかったな。
 お母さんは、
 「生まれるって、すごいことだよ。」
 と教えてくれた。どくどく、どくどく、生きてるってすごいこと。どくどくって、うれしい、楽しい音なんだね。
 家ぞくみんなが、どくどく、とくんとかんと楽しい音をさせて、ずっといっしょにいたいな。



思い出の鉛筆

広島市立五日市中学校 1年 いのうえ さき 井上 咲希

私は小さい頃、兄と弟が大嫌いだった。私には、兄と弟がそれぞれ一人ずついる。兄は、いつもは私の話を聞いてくれないのに、いじわるやちょっかいをかけてきて、弟には、私の大好きな「お母さん」の存在を一人占めされていた。こんな兄弟なんかいらないうい、そう思っていたのだが、今はちがう。今では、兄は高校へ通い、夜おそくまでアルバイトをしていて、くたくたになってもまた明日頑張ろうとしている姿に尊敬するし、弟が勉強と三つの習い事を頑張っているところも、本当にすごいと思っている。今では、兄弟の良いところなんて数えきれないほど言える自信があるし、兄弟が大好きだ、と言えるくらい気持ちがある。そう思えるようになったきっかけは、今から6年前、私が1年生のときのことだった。

私が小学校を入学してから少し経ったある日、私の弟はノロウイルスという病気にかかり、しばらく入院することをお母さんに言われた。6才だから、どんな病気かなんてわからなくて、いつも通りの慣れない学校に行った。学校から帰り、お母さんに言われた。
 「明日、病院に行くって、夜ご飯はおばあちゃんと食べてね。」
 「うん。」と答え、明日の準備をしていると、私の口から、思ってもいない言葉がでた。
 「お母さん、私ね、新しい鉛筆が欲しいの。」
 お母さんに甘えていたのだろう。本当は鉛筆なんてたくさん持っていたのに。もやもやした気持ちで次の日の学校から帰ると、ちょうどお母さんが病院に行こうとしていた。「もう少しでお兄ちゃんが習い事から帰ってくるし、おばあちゃんも来ると思うから、良い子で待っててね。」
 「ガチャン。」と音を立てて、ドアが開き、ガラスの向こう側のお母さんの服の色が見えなくなった。リビングに向かうと、机の上に私の好きなキャラクターの鉛筆が置いてあった。「ありがとう。」と言いたくて、私は急いでドアを開けた。でもお母さんの姿はない。その時、今までがまんしていたものが、声になって響く。涙があふれたまま、リビングにもどると、鉛筆の横の手紙に気づいた。そこには、「あしたのじゅんぴ、わすれないように。あたらしいえんぴつでべんきょう、がんばってね。」と書いてあった。私は、名前ペンを手に取り、鉛筆に名前を書いた。泣いているからか、手がふるえて、うまく字が書けない。やっとなこと書き終わると、ドアが開き、お兄ちゃんの顔が見えた。安心したのか、さらに大きな声が部屋に響く。無口な兄は何も言わず、私を抱きしめてくれた。

それからのことは、あまり覚えていない。ただ、私はそこで、お母さんの大切さ、兄の優しさを感じ、これから先、家族や友達の力になれることがあればいいな、と心から思ったのははっきりと覚えている。



私の家族

せがわ かな
広島市立瀬野川東中学校 1年 瀬川 夏愛

私は、1才半から父親の仕事の関係で引越しをたくさんしてきました。いつも1~2年間かくで引越しをしてきたので、幼稚園が2回小学校が4回かわりました。私の家族は引越しがそろそろ決まりそうになると必ず家族会議をひらきます。父と母はいつも私と弟と妹の話を聞いてくれていました。最初の頃は自分も小さかったので、あまり思い出はありませんが、母は知らない場所でも家の近くの公園へつれて行ってくれたり、私たちと同じぐらいの子たちと仲良くできるように話しかけてくれたりして、私たちの友達をつくってくれていました。父は引越し先の観光名所などを調べてたくさん出かけてくれました。だから小さい時は引越しをすることは楽しかったです。

小学生になって初めて引越しに悩みました。1、2年生でも学校に慣れて、友達もたくさんでき、信頼できる友達にも出会え、思い出が増え毎日が楽しかったです。初めて行く学校の登校初日は心臓バクバクできん張っていました。何回も転校してきてもこれだけは慣れませんでした。それでも、私のために母は毎回クラスまでついてきてくれました。すれちがう子たちに母は笑顔であいさつをしてきん張をやわらげてくれていました。家に帰ると必ず父と母は、その日にあった良いことや、良くなかった事なんでも聞いてくれました。弟も妹も、その日にあった事を話している時はとても楽しそうで夕飯の時はみんながそれぞれ話を始めるのですごくにぎやかでした。4年生の時1月に長崎へ引越ししました。5年の始めに、まだ慣れていない時クラスの子にいやな事を言われて初めて学校へ行きたくないと思い、母へ相談しました。父と母は私の話を聞いてくれて、「無理して学校へ行かなくてもいい。」

と言ってくれました。家にいる時も父と母は明るくいつも通りに接してくれていたのととても気が楽になりました。父と母、仲良くなった友達のおかげで学校へ行く勇気ができました。それから仲良くしてくれていた友達が引越しをして行きました。いつもは、自分が引越しをして見送ってもらう方だったのに、初めて友達を見送り、見送る方のさみしさも知りました。6年生の1月にまた引越しの話になりました。今回は私の卒業もあり家族でたくさん悩み考えました。父と母は私の気持ちが一番だと言ってくれました。私は5、6年生を過ごした学校で、たくさんの友達、先生たちと卒業式をむかえたかったけど、父1人で引越すのではなく家族で引越すことに決めました。私は今まで10回の引越しをしてきたけど、そのたびに父と母が私たちのことを一番に考えて話を聞いてくれて明るくしてくれていたのが家族がずっと一緒にいたいと思いました。私が引越した後に引越さなければ良かった、とか思わないのは家族と一緒に毎日が楽しいと思える家族だからだと思います。父と母は、私に「苦労かけてごめんね。」

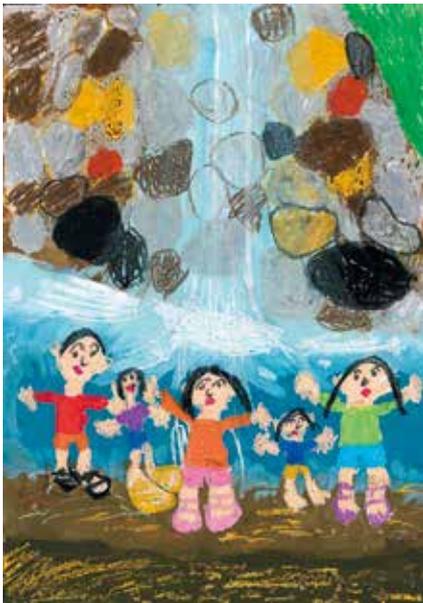
と言います。クラスのお別れ会では、私と同じように父と母も涙しています。でも私はその時は悲しくても、家族での新しい生活がまっていると前向きでいられました。それは父と母、弟と妹のおかげだと思います。

私は引越しの多い家庭で良かったと思いました。広島に引越してきた後祖母が長崎での卒業式につれて行ってくれました。お世話になった先生、仲良くなったみんなと一緒に卒業式で会えたので、とてもうれしかったです。いつも私たちのことを思ってくれている父と母、祖父、祖母ありがとう。これが私の自まんの家族です。



たかはし ゆうな
三次市立みらさか小学校 2年 高橋 悠菜

じいじのすいかがとってもおいしかったよ。



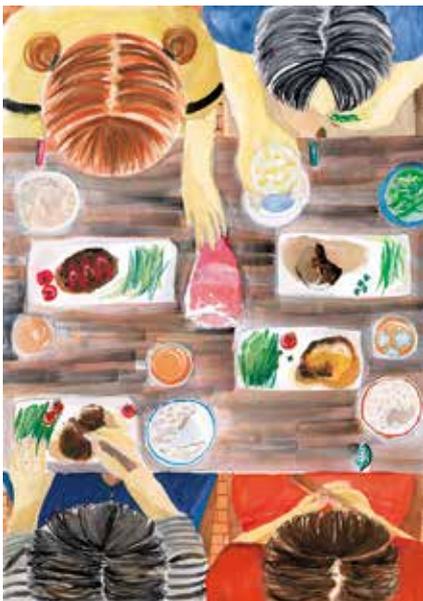
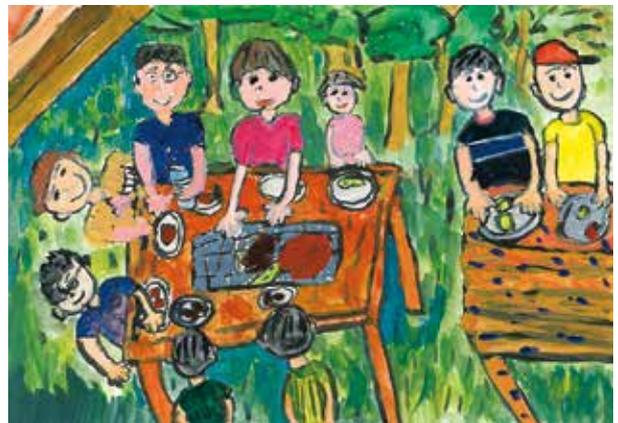
福山市立西小学校
1年 坂口 莉央夏
しまねけんのたきを
みにいったよ。



福山市立御幸小学校
3年 山南 璃歩
家族のおうえんで、
乗れたターザンです。



東広島市立西条小学校
3年 宮信 聡大
いとこの赤ちゃんと
花火をしたよ。



呉市立昭和北小学校
4年 中本 利埜
家族みんなでバーベキューを
しました。



福山市立鳳中学校
3年 藤原 春奈
みんなで一緒に食べる
ご飯が1番おいしい。

協賛：広島ロータリークラブ、広島南ロータリークラブ、
広島東ロータリークラブ、広島東南ロータリークラブ、
広島北ロータリークラブ、広島西ロータリークラブ、
広島中央ロータリークラブ、広島西南ロータリークラブ、
広島陵北ロータリークラブ、広島安芸ロータリークラブ、
広島城南ロータリークラブ、広島廿日市ロータリークラブ、
広島安佐ロータリークラブ

青少年育成安芸高田市民会議

心がほっとする標語 優秀作品表彰式



青少年育成安芸高田市民会議では、子どもたちを地域みんなで温かく見守り応援していることを共有することを目的に「青少年育成フェスティバル」を毎年、開催しています。

今年のフェスティバルでは、まずオープニングにアトラクションとして地元の向原高校フラダンス部によるステージ発表を行いました。向原高校は東日本大震災をきっかけに、福島県の勿来（なこそ）工業高校との交流が始まり、被災された方々に元気になって頂きたいという生徒の思いから、ささやかではありますがフラダンスを通じた復興応援に至りました。



向原高校生によるフラダンス



吉田中学生による吹奏楽演奏

前回のフェスティバルのアトラクションでは、地元、吉田中学校による吹奏楽の演奏の機会を設けるなど、地域の人たちへの貴重な発表の場となっています。

フェスティバルでは、その他、小中学生から募集した「心がほっとする標語」（人権標語）の優秀作品の紹介・表彰式、また、小中学生による意見発表を行っています。



意見発表をした小中学生

意見発表では、市内の小中学生数名が、自分自身の体験を元に考えたことや実践していることを発表します。発表する子どもにとっては、自分の事を多くの人に伝えるために一生懸命考え、自分を成長させる機会になります。発表を聞く地域の大人の方もそうした発表から、確実に元気や勇気をもらっています。

また、意見発表の後は、青少年育成の参考となる研修や映画上映を行っています。これまで、子育てに役立つ「コーチング」（質問と傾聴を繰り返す）子どもの潜在意識（能力）を引き出し

県内各地の市町民会議が、地域の特性を生かした特色あるイベントを開催しています。今回は2つの活動を紹介します。

いきいき地域活動紹介

市町民会議は県民運動を推進する組織です

ていくスキル）や「引きこもり支援」などをテーマに研修会を開催しましたが、今年度はドキュメンタリー映画「夢は牛のお医者さん」の上映を行いました。

この映画は、新潟県の9人しか児童のいない小学校にやって来た3頭の子牛との出会いと別れを通じて、獣医になる夢を抱いた少女の26年間を追ったドキュメンタリー映画で、少女が初志貫徹し、大学受験・国家試験と目標へいちずに突き進む姿をカメラが追っています。命に向き合うことや夢を真剣に追うこと、家族の深い愛情、地域の温かなつながりについて参加者が考える機会となりました。

地道ではありますが、青少年育成安芸高田市民会議では、毎年こうした取り組みを積み重ねていくことによって、地域の子どもを大人たちが温かく見守る関係を保つよう努めています。



命を大切にすパネル展示も行いました。

青少年育成坂町民会議

青少年育成坂町民会議は、町内各種団体の協力のもと、次世代の坂町を担う青少年の健やかな育成を図ることを目的に様々な活動を行っています。今回は、その活動の一部をご紹介します。

【あいさつ運動推進事業】

坂町では、毎年5月の第2日曜日に、青少年育成坂町民会議総会及びあいさつ運動推進パレードを開催しています。町内の商業エリアから総会会場までの約20分の道のりを、広報車と横断幕を持った地域の女性団体の皆さんを先頭に、スポーツ少年団員や地域の方々元気にあいさつを交わしながら歩きます。

また、毎月第3火曜日には、地域の女性団体の皆さんのご協力のもと「あいさつ運動」を実施しています。この取組みは、地域子ども達を見守り、コミュニケーションを図ることを目的に行っています。広報車で町内をまわり、すれ違う人と積極的にあいさつを交わし、声を掛け合うことで、帰宅途中の児童、生徒や地域の方々を守る役割も担っています。これからも人と人との心をつなぐ、コミュニケーションの第一歩である「あいさつ・声かけ運動」を推進していきます。



【スポーツ交流会】

坂町では、毎年、姉妹縁組を結んでいる島根県川本町と坂町の子ども達で交流会を実施しています。今年度は、8月に一泊二日の日程で、国立江田島青少年交流の家において、カッター訓練や海浜に生息するウミホタル観察等を行いました。カッター訓練では、指導員



の指導のもと全員で声を出し、動きを合わせてカッターを海に走らせました。カッターは、ひとりの力では思うように進まないけれど、全員が自分の動きに意思と責任をもって初めて動かしたい方向に進めます。協調性や責任感は、実践あってこそ身につけていくのだと感じます。

また、両町交えた班づくりにして交流を深め、冬季に予定されているスキー交流会での再会を誓い、楽しい実りのある二日間を過ごしました。

【親子水でっぽうづくり・そうめん流し】

毎月第3日曜日は「家庭の日」です。坂町では、健全な家庭づくり推進事業の一環として、毎年7月に、親子でふれあって一緒に楽しめるよう「親子水でっぽうづくり・そうめん流し」事業を実施しています。今年度は、一昨年7月の豪雨災害で被害の大きかった小屋浦地区を盛り上げよう!と地域の皆様のご協力のもと小屋浦小学校にて開催されました。総勢150名の親子が集まり、子どもたちは、地域の方々や保護者に使い慣れないのこぎり等の使い方を教わって水でっぽうを完成させ、手作りの水でっぽうで友達や親子で水をかけあったりして楽しい時間を過ごしました。昼食のそうめん流しは、地域有志の方々による手作りの竹の箸と

器でいただきました。そうめんを流す竹のルールももちろん手作りで、大人のたくさんの愛情に包まれながら、大勢で食べるごはんは、よりいっそう美味しく感じ、笑顔いっぱい!お腹いっぱい!の一日を過ごしました。今後も、核家族化や少子化に伴い希薄になりがちな地域の再生づくり、また親子のふれあい遊びの大切さを実感できる本事業を推進していきたいと思っています。



おわりに

本町は、一昨年7月の豪雨災害で甚大な被害に見舞われました。復旧復興に尽力していますが、未だ仮設住宅を余儀なくされている方もいらっしゃいます。そんな中、地域の中に子ども達の元気な笑い声が聞こえてくると、自然とこちら元気がなります。この声を絶やすことのないよう、安心して暮らしていける町づくり、地域づくりに取り組んでいくことが、我々大人の使命だと思っています。

「少年の主張」・ 中学生話し方大会2019

第41回少年の主張広島県大会 第53回中学生話し方広島大会



東広島市立西条中学校 3年 にしむら ゆう 西村 悠 さん



広島県大会の出場者の皆さん

令和元年9月7日(土)、広島県社会福祉会館において、「少年の主張」・中学生話し方大会2019(第41回「少年の主張」広島県大会、第53回中学生話し方広島大会)を広島県中学校話し方連盟と共催で開催しました。

今大会には、県内中学校の44校から3,430編の応募があり、その中から原稿審査を通過した23名が、それぞれの主張を力強く発表しました。

発表内容としては、身近なことの体験と感想を基に掘り下げて自分の意見を作り出している人が多かったようです。そして自分が見つけた考えや意見をこれからの自分の生き方に活かしていこうとしています。態度はしっかりと、明るく、とても良い発表ができていました。

ここに、広島県知事賞を受賞した東広島市立西条中学校3年西村 悠さんの意見発表を掲載します。

受賞者一覧

受賞名	中学校名	氏名	題名
広島県知事賞	東広島市立西条中学校	3年 <small>にしむら ゆう</small> 西村 悠	生きる意味
公益社団法人青少年育成広島県民会議会長賞	広島市立国泰寺中学校	2年 <small>こばやし もか</small> 小林 百花	楽しんでね!
広島県中学校話し方連盟会長賞	熊野町立熊野東中学校	3年 <small>いとう ゆうき</small> 伊藤 ゆうき	たった一つの命を守るために
国際ソロプチミスト広島会長賞	大崎上島町立大崎上島中学校	2年 <small>ともまつ ちひろ</small> 友松 千尋	心は最高の仕事道具
広島清流ライオンズクラブ会長賞	三次市立布野中学校	3年 <small>まるかわ たいじ</small> 丸川 大慈	後悔を越えて
優 秀 賞	広島市立井口中学校	3年 <small>くぼた あかり</small> 窪田 愛花理	「もったいない」から生まれる笑顔を
優 秀 賞	三次市立塩町中学校	3年 <small>にい みなみ</small> 新居 南海	平和な世界を築くために
優 秀 賞	北広島町立千代田中学校	3年 <small>かわうち のあ</small> 河内 乃愛	世界観を広げる
優 秀 賞	広島市立亀山中学校	3年 <small>なかむら ゆな</small> 中村 優那	繋がれた縁
優 秀 賞	尾道市立重井中学校	2年 <small>ながかわ ちはる</small> 永川 千晴	私の妹
優 秀 賞	広島市立白木中学校	3年 <small>ふくしま まさひろ</small> 福島 誠啓	部活を越える
優 秀 賞	竹原市立賀茂川中学校	3年 <small>ますだ じゆの</small> 益田 珠野	食品ロスを減らすために

生きる意味

東広島市立西条中学校 3年 ^{にしむら ゆう}西村 悠 さん

皆さんにも大切な人がいますね?もし、その大切な人の「人生の最後」が近づいてきたら、皆さんはその大切な人に何がしてあげられるでしょうか。

私は幸せなことに、ひいひいばあちゃんに会ったことがあります。100歳以上の天寿を全うした人でした。私が幼い頃、よくおばあちゃんの家に来て行ってもらいました。おばあちゃんの家に行くといつもお煎餅がたくさん入った缶がおいてあり、おばあちゃんは海苔で巻かれた醤油味の煎餅をくれました。私はその煎餅が大好きでした。私が何かでぐずっていると、決まっておばあちゃんは「おや、まあまあ。」

と言って、煎餅をくれました。おばあちゃんは編み物も得意で、時間さえあれば編み物をしていました。私の家にはジンベエやひざ掛など、おばあちゃんの編み物であふれていました。私はおばあちゃんはずっと笑顔で、ずっと編み物をして、ずっと元気である人だと思っていました。

しかし、私が小学1年生の時、突然、おばあちゃんは天国へ旅立ってしまいました。私はお別れを言うことさえできませんでした。私は、私が海苔巻き煎餅を食べている絵を描いて、棺の中に入れました。そしてしばらく、布団の中にもぐって泣きました。

お葬式の日から、私は「死」について考えるようになりました。死ぬのは怖いのだろうか、痛いのだろうか。死ぬ前はどんな気持ちになるのだろうか。私もおばあちゃんみたいに100歳以上まで長生きできるだろうか。明日、死んでしまったらどうしよう。

怖くなって母に相談しました。その時母はこんなことを言いました。

「長生きって幸せか、不幸せか、どっちなんだろうね。ひいひいばあちゃんはね、もうあの年になるとお友達も減ってくるんよ。自分の娘のほうが病気で先に死んでしまったりね。それって辛いことだよね。」

私はそれを聞いて、ああ、そうだなと思いました。生きる事は「幸せ」「不幸せ」と隣り合わせなんだと思い、しばらく怖くて、同時にスッキリしませんでした。

そんなある日、私はネットで見たあるCMに心を奪われました。皆さんもきっと知っているでしょう。「たったひとつのたからもの」。小田和正さんの「言葉にできない」の歌声に合わせて、お父さんが6歳の幼さで亡くなった息子の秋雪君を懸命に抱きしめている写真が流れてきます。

心を引きつけられた私は、早速図書館で本を借りて読みました。秋雪君はダウン症という障害があり、また心臓の病気もあって、産まれてすぐに1年もいきられないだろうと告げられてしまいます。お母さんは頭の中が真っ白になったそうです。でも「ぼくは生きてるよ」と訴えてくる秋雪君の存在に、お母さんは秋雪君の命を守る戦いを始めたそうです。秋雪君は6年間生き、そして亡くなります。本にお母さんはこう書いています。「人の幸せは、命の長さではないのです。」この言葉で私は何年も抱えていた悩みが一気に解けたように感じました。人生の長さに関係なく、ひいひいばあちゃんも秋雪君も、与えられた日々を全力で生き、家族を助け家族に助けられ、周りの人に笑顔を与えました。もちろん誰だって長生きはしたい。でも、どれだけ生きたかではなく、どのように生きたか。それこそが生きる意味なのだと。

私は今、中学3年生です。日々死を意識して生きることは出来ませんが、いつか自分にも死が訪れるのだということを忘れずに、与えられた時間を、夢を追って、全力で挑戦し充実した日々を送っていきます。そして、おばあちゃんや秋雪君のように家族を笑顔に出来るよう生きていきます。それこそが私の「生きる意味」なのです。

青少年サポーター事業

広島県と広島県議会の共催で、次代を担う子供たちが県政に対する意見や提言を表明できる機会を通して県の魅力や課題に関心を持つとともに、県議会の役割や仕組みを知り、議会制民主主義や地方自治への理解を深め、主体性と社会参画意識を高めることを目的とした「広島県子供議会」を開催するにあたり、子供議員の活動を支援するサポーターとして大学生を募集し、育成しました。

■ サポーター育成研修会

子供議員をサポートするためのノウハウを学ぶ研修に実績のある環境レイカーズ代表の島川武治しまかわたけはるさんの指導により、開催しました。

- 日時 令和元年7月28日(日) 10:00～16:00
- 場所 広島県立総合体育館 地下1階 小会議室
- 内容 講師による講義と演習
 - ・子供とのかかわり方やサポーターシップについて
 - ・議会での質問、提案づくりに向けたワーク
 - ・子供議会の運営など

今年度は大学生11人が研修会に参加しました。



サポーター育成研修会の様子



子供議員の活動支援の様子



■ 広島県子供議会の活動

子供議員は44人(小学生16人、中学生28人)で次のプログラムを実施し、サポーターがこれを支援しました。

プログラム	内 容	活 動 日	場 所
オリエンテーション交流会	<ul style="list-style-type: none"> ◆オリエンテーション ◆子供議員間の交流 ◆県議会の役割を学ぶ ◆興味・関心のあるテーマごとにグループ編成 	8月10日(土) 10:30～16:00	エソール広島
勉強会①	◆子供議会で発表する質問や提案の作成 (グループで意見交換⇒質問や提案作成)	9月1日(日) 10:30～16:00	広島YMCA国際文化センター
勉強会②		9月29日(日) 10:30～16:00	広島県庁
子供議会	<ul style="list-style-type: none"> ◆議場において質問や提案発表 【出席者】議長、議員、知事、副知事、教育長、県警本部長、各局長等 当日の午前中に任命式、県議会議員との交流会を実施 ・子供議会の様子はインターネットで配信中 www.pref.hiroshima.lg.jp/site/gikai/reiwagannenkodomogikai.html 	10月19日(土) 13:00～15:00	県議会議事堂



あいさつ・声かけ運動 街頭啓発キャンペーン

～あいさつ・声かけ運動の広がりを目指して～

核家族化、少子化の進展や地域における人間関係の希薄化などが進む中、人と人とのコミュニケーションの第一歩である「あいさつ」の重要性が見直されています。

11月の子供・若者育成支援強調月間にあたり、県内3か所で街頭啓発活動を実施しました。

※広島県が行う「広島県麻薬・覚せい剤乱用防止運動」と連携しています。

～街頭啓発に参加の関係機関、団体～

令和元年11月1日(金) JR広島駅 南口 噴水前口

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 広島市青少年健全育成連絡協議会
- 広島県
- 広島県議会
- 広島県警察
- 広島市教育委員会
- 広島県高等学校PTA連合会
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会
- 広島県地域女性団体連絡協議会
- 広島市地域女性団体連絡協議会



令和元年11月5日(火) JR西条駅前

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 青少年育成東広島市民会議 ○広島県
- 広島県教育委員会 ○広島県警察 ○東広島市
- 東広島市議会
- 東広島市教育委員会
- 東広島地区更生保護女性会
- 東広島地区保護司会
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会



● あいさつはコミュニケーションの第一歩!

● 家庭では

- 基本的な生活習慣としてのあいさつ・声かけをしましょう
「おはよう」「おやすみ」「いただきます」「ごちそうさま」
「いってきます」「いってらっしゃい」
- 家族そろって食卓を囲みましょう
食卓を囲んでの会話から、子供の変化が感じられます。

● 学校では

- 登下校時、学校内であいさつ・声かけをしましょう
通学路、校門、ホームルームなど
- 保護者に対する啓発活動
通信文、保護者会などを活用して

● 地域では

- 登下校時のあいさつ・声かけをしましょう
地域で子供を育てる
- 地域住民が集い、声をかけあえる場づくりをしましょう
町内会行事、子供会行事などへの積極的参加の呼びかけ

● 市町等では

- 広報誌・会議・集会などでの呼びかけ
- 関係機関・団体への協力依頼

● 事業所では

- 店内・店頭での声かけ
「いらっしゃい」「おかえり」「今日は早いね」「早く家に帰ろう」

令和元年11月7日(木) JR福山駅 南口

- 公益社団法人青少年育成広島県民会議
- 公益財団法人福山市スポーツ協会
- 広島県
- 広島県警察
- 福山市
- 広島県少年補導協助手連絡協議会連合会
- 福山市青少年育成員協議会
- 福山市中央青少年育成員協議会



青少年育成カレッジ 「総合講座」

公益社団法人青少年育成広島県民会議では、公立大学法人県立広島大学と連携して、「青少年育成カレッジ」を開講しています。青少年の心と健康、行動などを理解し、すこやかに育むための知識や手法を学び、「わかりやすい」と受講者からは好評です。今年度のテーマは「子どもの力を引き出す環境づくり」とし、第1回は「傷つきやすく生きづらさを抱えるひととのかかわり方」について、第2回は「子どもの行動に対する理解と支援、心を育てる手法-プレイバックシアター体験」について開講しました。

第1回

令和元年11月16日(土) 10:00~15:30

「傷つきやすく生きづらさを抱えるひととのかかわり方」

講師：おりた やすし 織田 靖史 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 助教



■ 講義I【感情が暴走してしまう時の理解と対処法】

心が揺れやすく感情が爆発してしまう、傷つきやすく周りとうまくなじめない、など生きづらさを抱える青少年は、多くの場合、心に深い傷を受けていることが分かっています。そのような青少年たちには、何が起きているのか?一緒に考えたいと思います。



■ 講義II【受容のための承認スキル入門-弁証法的行動療法に学ぶ】

心が揺れやすく感情が爆発してしまう、傷つきやすく周りとうまくなじめない、など生きづらさを抱える青少年は、多くの場合、心に深い傷を受けていることが分かっています。そのような青少年たちとどう付き合うか?その方法の1つを実技も交えて紹介します。



第2回

令和元年11月30日(土) 10:00~15:30

「子どもの行動に対する理解と支援、心を育てる手法-プレイバックシアター体験」

講師：こやま ちかこ 古山 千佳子 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 教授

劇団しましま(吉川 ひろみ、永吉 美香、高木 雅之、中越 雄也、西東 壮一、西東 めぐみ)



■ 講義I【子どもの行動を「人-環境-作業」の相互作用で考える】

人は、環境の中で、意味のある活動(作業)をしながら暮らしています。人-環境-作業が上手く相互作用すれば、適応的な行動へと繋がります。では、なぜ子ども達は不適応行動を起こすのか、どう理解し、支援すれば良いのか、「人-環境-作業」の視点で考えます。



■ 講義II【心を育てる方法-プレイバックシアター体験】

プレイバックシアターとは、語られたストーリーを即興で演じる即興劇です。人の経験に共感し、人とのつながりを感じる効果があります。「心」を育てる手法として学校のいじめ予防授業などにも用いられています。今回は、劇団しましまの協力のもと、プレイバックシアターを体験します。



「認証状」授与式

青少年育成カレッジでは、所定の20単位(1講座1単位)を修得された方に、学習したことを評価して「認証状」を発行しています。

これまでに79名の方が修得されており、令和元年度は新たに7名の方が修得されました。



(敬称略)

傷つきやすく生きづらさを抱えるひとのかかわり方

織田 ^{おりた} 靖史 ^{やすし} さん 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 助教

はじめに

今回のテーマは、現在の日本社会が抱える10代、20代の自殺率や自傷経験の高さ、対人関係での傷つきによるひきこもりやキレるなど、青少年の問題について対処したいと考え選びました。

現在、上記のような問題の原因の1つとして、感情調節の困難さがあると考えられています。人は、感情が暴走することで思わぬ行動をとります。例えば、イライラしているとちょっとしたことでカーとして怒鳴ってしまったり、メソメソしていると何でもないことが気になってズーンと落ち込んでしまい誰とも会いたくなくなったり、モヤモヤしているとささいなことがドーンとのしかかってきて全てが嫌になって放り出したくなったり、感情が暴走することで思わぬ行動につながり、それが生きづらさを招いてしまいます。

そこで今回は、感情調節困難な状態にある人に対するかかわり方について、リネハン (Marsha M. Linehan) という人が開発した『弁証法的行動療法』を参考に学びたいと思います。

感情調節困難を生み出す生物学的要因

「感情が暴走しだすと止められない。ある出来事があって、考える前に感情の波はドツと押し寄せてきて、気が付いたら後悔する行動をとっていた」そのような経験を、多くの感情調節困難な人はしているようです。(実は、私自身もそのような経験を持っています。ですから、実体験としてお話しできます。) では、なぜそのようなことが起こるのでしょうか。

最近の研究では、それが脳と関連する可能性が指摘されています。それは、感情調節困難なひとの脳の特徴として、①感情刺激への非常に高い感受性、②感覚刺激に対する非常に激しい反応、③起こった感情反応の非常に長い持続性(平常に戻りにくい)を持っているのではないかとのことです。

説明しますと、①は、「これくらいのことで反応しなくても…」と周りの人が思ってしまう程の敏感さ(過敏さ)を意味します。これは、周りによく気づける(気づいてしまう)能力で、接客業のように環境とマッチすれば素晴らしい力を発揮します。しかし、常に反応している状態は疲れてしまいますし、多くのことを気にせず流すという周囲の価値観とそぐわないことも多くなってしまいうでしょう。

次に②について、「そこまで反応しなくても…」と周りの人が思うような反応とそれによる行動(衝動性)を意味します。すぐに反応し行動できるという能力も環境とマッチすることで大いに生かせる能力ですが、よろしくない(ネガティブな)方向に強い感情反応やそれに伴う行動が起こると、周囲とのあつれきを生むことは想像に難くないでしょう。

最後に③ですが、「えっ、今もまだ気にしているの…」というくらいの持続性があるということです。一度、感情反応が起こったらその感情で頭の中がいっぱいになり、他のことを考える余裕が

なくなります。グルグルとその感情にまつわる思考が頭の中を巡り、ずっとその状態が続く。通常私たちは、数分や数十分もしたら気分は変わっています。長くても数日でしょう。周囲の人はもう気分が変わっているだろうと思っているのに、まだまだ持続していたら…、それどころか気分が落ち着く前に心を支配した強い感情が次の感情を呼び寄せたら…。周囲の人との溝は深まるばかりでしょう。ちなみに気分が落ち着く前に強い感情が呼び寄せる次の感情のことを二次感情と呼びます。

感情調節困難な人は、このような生物学的要因（3つの特徴）を持っていると言われています。

感情調節困難を強める環境の要因

生物学的要因に起因する感情調節困難を強める要因として、環境との関係性が指摘されています。生物学的要因に挙げられている3つの特徴は、感情調節困難な人とそうでない人との間に大きなズレをもたらしてしまいます。そして、そのズレはともすると感情調節困難な人への偏見につながる危険性をはらんでいます。多くの人が、他者には優しく接したい、分け隔てなく公平に接したいと思われておられることと思います。まして、偏見なんて以ての外ですとされていることでしょう。しかし、例えば、「これくらいのことで反応しなくても…」「そこまで反応しなくても…」「えっ、今もまだ気にしているの…」というような周囲の人のその自身にとって当たり前の感覚は、感情調節困難な当事者の感覚とは当然のごとくズレているでしょう。そのズレは、無意識のうちに相手の感じ方やそれに基づく価値観を否定したり、その行きつく先は相手のことを認めないという対立になってしまうかもしれません。その結果、感情調節困難者は傷つき、そして孤立化します。これにより、ますます感情調節困難になっていくという悪循環が生み出されてしまいます。それを防ぐためには、相手のことを認める（承認する）ということが重要であるとされています。

承認スキルについて

最後に、承認スキルについてご紹介します。先ず承認は、積極的に承認できる要素を観察から見出し、その部分を言葉にして伝え、直接的な承認へとつなげるという3つのステップで行います。何を承認するのかについては、相手の考え（認知）や起こった感情、とった行動の中で、納得できるものがあればそれを承認します。例えば、怒りのままに怒鳴ったと後悔する人がいます。その怒りの背景に、「そりゃ怒るよね」という納得できる部分があれば、そこに「そんな状況ならば、それは当然怒ると思います」などと感情の承認をするといった具合です。これらに対して、くわえて、弁証法的行動療法にはチアリーディング技法という独特の承認スキルがあります。これは、（応援団のように）どんな時にも見捨てず、相手に寄り添い一緒にいるという承認です。

終わりに

今回、感情調節困難が起こる要因やその対処について考えました。人は、環境（社会）との間でその能力が生かされるか、それに苦しむかが決まると言っても過言ではないでしょう。その中で、人がお互いに相手の存在を認め合い、受け入れあうことで、傷つきや孤立化による生きづらさは回避できる可能性があります。このお話がその一助になれば幸いです。

子どもの行動に対する理解と支援心を育てる手法-プレイバックシアター体験

古山 千佳子 さん 県立広島大学 保健福祉学部 作業療法学科 教授

はじめに

人は、環境の中で、何らかの活動（作業）をして暮らしています。そんな中、なぜ子どもたちは不適応行動を示すのか、どう理解し、支援すれば良いのかを「人-環境-作業」の視点で考えます。

人-環境-作業の相互作用とは

1996年にカナダの作業療法士マリー・ローは、人-環境-作業モデル（以下P-E-Oモデル）（図1）を発表しました。このモデルは、人が作業をするということ（人の行動）を、人と環境と作業の相互作用によって生じる現象として捉えています。

人、環境、作業には、それぞれに要素があります。人には、年齢、体格、価値観などの要素があり、筋力、体力、柔軟性などの身体運動機能、理解や記憶などの認知機能、喜怒哀楽を感じ、調整する情緒機能などが備わっています。また、環境には、地形、建物、空間、道具などの物理的環境、人と人の関係を示す社会的環境、利用可能な社会資源や制度を示す制度的環境、集団（地域、学校、家族など）に共通する価値観を表す文化的環境があります。作業と聴くと、身体を使う重労働といったイメージがありますが、このモデルでは、作業を、「したい」、「する必要があり」、「することを期待されている」など、する人にとって個人的、社会的に意味のある活動の全てとしています。

以上のように、人、環境、作業それぞれに特徴があり、これら全てが良い状態ならば作業はうまくできます。しかし、これらを相互作用と捉えるならば、例え不安が強くて自信のない人であっても、近くに親切な援助者がいる環境で、しなければならぬ作業であれば、予想以上にうまくできることがあるでしょう。また、身体が不自由で思うように動けない人であっても、エレベータが付いたバリアフリーの建物で、興味のある作業をするのであれば、うまくできる可能性は高まります。しかし、その逆に、例え記憶力や理解力が抜群に良い人であっても、道具が古くて整理されていない環境で、初めての作業であったら、うまくできるとは限りません（図1）。すなわち、どんなに人が良い状態であっても、環境が整っていないと、初めての作業や意味のない作業であればうまくできないことがあります。また逆に、人の状態が悪くなかったとしても、その人に合った環境で、興味や意味のある作業であればうまくできることがあるのです。

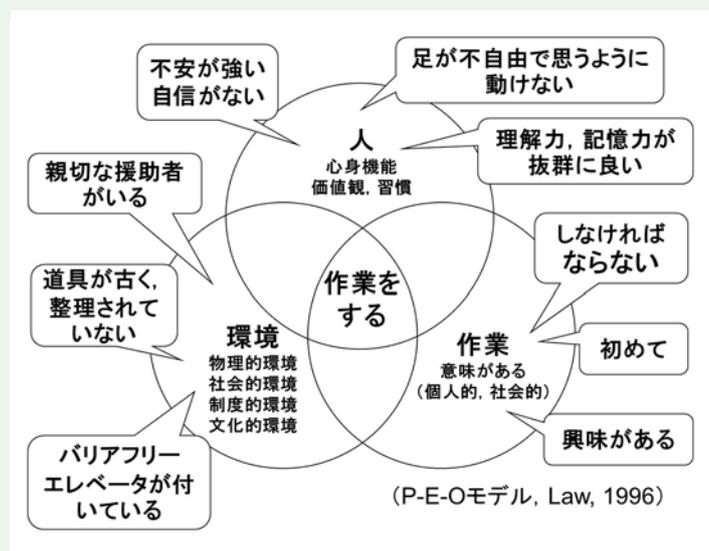


図1 人-環境-作業モデル

子どもの行動を人-環境-作業の相互作用で考える

ここに1人の子どもがいます(図2)。この子の目の前には、身長よりも高い壁があります。この子は壁の向こうに何があるかを知りたいと思っています。では、どうすれば、この子は壁の向うを知ることができるのでしょうか?この問題には、たくさんの答えが考えられます。例えば、壁をよじ登って見る、その場でジャンプして見るなどです。ただし、壁をよじ登るためには腕の力を、ジャンプするためには足の力を付けなければなりません。すなわち、子ども自身を鍛えることで壁の向うに何があるかを見るという方法です。しかし、これには、多くの努力と時間が必要になります。一方で、適切な高さの台やはしごを持ってくるなど、道具を使うことで、見えるようにする方法もあります。さらには、背の高い人を連れて来て代わりに見てもらう、知っている人に聴くなど、「見る」から「聴く」や「教えてもらう」といった方法にやり方を変えることもできます。壁の向うに何があるかを知るためには、子ども自身を鍛えるよりも、道具ややり方を工夫する方が、より楽で、早くできるようになります。すなわち、作業ができない状況に直面したとき、人を変える(腕や足の力を鍛える)よりも、人に合わせて環境を変えたり(台やはしごを持ってくる)、作業のやり方を変える(背の高い人に見てもらう、知っている人に聴く)方が、より楽に、効率よくできるようになることが多いのです。



図2 壁の前に立つ子ども

プレイバックシアター:ストーリーから学ぶ-語ること、聴くことの大切さ

プレイバックシアターとは、テラーが語るストーリーをその場で演じる即興劇です。1970年代にジョナサン・ホックスにより創出されました。プレイバックシアターでは、最初に進行役のコンダクターが観客から自身の経験を語るテラーを募ります。次に、コンダクターのインタビューにより、テラーが舞台上で自分の体験を語ります。その内容をアクターが即興で演じ、演技に合わせてミュージシャンが音楽を奏でます(図3)。テラーは、自分が語ったストーリーが即興で演じられるのを観て、まずは驚きを感じ、経験をリアルに振り返ります。そして、自分の気持ちを整理したり、新たな感情に気付くきっかけを得ることになるのです。観客は、テラーのストーリーを観ることで、テラーの経験に共感し、自分の経験と重ね合わせ、自身のストーリーを振り返ります。人とのつながりを感じて暖かい気持ちになることもあるようです。また、プレイバックシアターには、他者を受け入れたり、他者から受け入れられる感覚を味わうことで、心を癒す効果があるとも言われています。近年では、心を育てる手法としていじめ防止授業、子育て支援、対人援助職教育等で活用されています。



図3 プレイバックシアターの一場面

おわりに

子どもの行動を、人と環境と作業の相互作用で理解してみましよう。そして、子どもの不適応行動に対しては、その子を取り巻く環境、している作業や作業のやり方を見直してみましよう。子ども一人一人のストーリーにしっかりと耳を傾けてみましよう。そうすることが、子どものより良い理解と支援につながっていくのです。

毎月17日

青少年の日

毎月第3日曜日

家庭の日

7月1日～7月31日

青少年の非行・被害防止
全国強調月間

11月1日～11月30日

子供・若者育成支援
強調月間

青少年育成広島県民会議とは…

青少年育成県民運動の推進母体として、昭和41年の設立以来、次代を担う青少年の健全な育成を図ることを目的にさまざまな事業を行ってきました。

昨今の複雑多様化した青少年をめぐる問題に、国、県、市町の行政や青少年団体など関係機関と連携し、県民総ぐるみの育成運動として取り組んでいます。あいさつ・声かけ運動、少年の主張、ひろしまドリームプロジェクト事業、青少年育成カレッジなど幅広い内容です。平成23年度に公益社団法人に移行しました。

〈概要〉

設立 昭和41年12月7日

法人格取得 平成2年10月21日

認定日 平成23年3月22日

育成積立金 5億円(平成3年度設置)

会長 上田宗岡(茶道上田宗箇流家元)

Information

会員加入のお願い

私たちがそうであったように子どもたちはやがて大人になっていきます。青少年が夢を持ち、健やかに成長し、自分が育った地域を愛し、社会を構成していくことは私たち全ての願いです。そのため活動を県民運動として取り組んでいます。

県民の皆様方に会員になっていただき、この活動へのご支援をお願いしております。活動の内容は、機関紙「せとのあさ」やホームページをご覧ください。

<http://www.hiro-payd.or.jp>

■正会員

(年額)	個人	3,000円
	団体	5,000円

■賛助会員

(年額一口)	個人	1,000円
	団体	10,000円

- 何口でも結構です。
- 機関紙「せとのあさ」等をお送りします。
- 会費の納入方法などは、事務局までお問い合わせください。

銀行
振込先

広島銀行県庁支店

口座番号／(普通)233251

口座名義／(公社)青少年育成広島県民会議



「ゆっぴー」は、府中町の小学生が太陽とライオンをモデルに、“元気に明るく育つ青少年”をイメージしてデザインしました。

広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー



広島県の青少年のマスコット
ゆっぴー

せとのあさ ー第152号ー

令和2年2月発行

公益社団法人 青少年育成広島県民会議

〒730-8511 広島市中区基町10-52

広島県環境県民局県民活動課内

TEL.082-513-2742 FAX.082-511-2173

<http://www.hiro-payd.or.jp>



題字／茶道 上田宗箇流
第十六代家元 上田宗冨